

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2015.9 Vol.120



全日本学生ラート競技選手権大会で団体優勝した松本大学ラート競技部
(詳しくはP14をご覧ください)

特集 教育で地域を「元気に」

～松本大学の『双方向の学び』

Interactive learning～ …… P.02

- 充実した今夏の国際交流活動 …………… P.06
- 「大学COC事業」による最近の取り組み
災害対策へ本格始動ー防災に向けた本学の取り組みー …………… P.08
- 「ひらめき☆ときめきサイエンス」8年連続開催 …………… P.11
- ラート競技部インカレで団体優勝 …………… P.14 ほか

教育で地域を「元気に」

～松本大学の『双方向の学び』Interactive learning～

大自然に囲まれ風光明媚な信州には都会にないものがたくさんあります。その中の一つが地域コミュニケーション。隣人が誰なのかもわからない、隣近所と協力し合うことも少ない都会と違い、相互扶助が当たり前の文化として残っている地域だからこそ、「地域に学び」「地域で学び」「地域に還元・貢献する」という松本大学が目指す『双方向の学び (Interactive learning)』が成立しています。本学のこのような学び・教育が、地域を「元気に」することにもつながっているのです。

全学教務委員会 委員長 岩間 英明



「地域に学び」 「地域に還元する」

学生は大学のキャンパス (以下 In Campus と呼びます) で学んだことを、地域というフィールド (以下 Out Campus と呼びます) に出て実践しています。また、様々な理由によって直接地域に出て活動できないような場合、地域で実際に活躍されている実践家を大学に招聘して特別講義を開講したり、学修支援指導者として大学の講義の中に入れていただいたりしています。本学ではこれを「サポーター教員制度」と呼び、講義を支援していただいたり、実践者の立場からの視座や提言を示していただいて、実際の現場に出た時と同様の学修効果を上げられるようにしています。

一方、本学の教員も高校生や地域の住民を対象に「出前講座」を実施しており、大学の外に出て講義し、所有する知的財産を還元・提供することでまた『双方向の学び』の一翼を担っています。

「理論」と「実践」を融合し 深く学ぶ

さて、学生は現場実践や実践家の講義といった Out Campus の学修を通して、理論中心の In Campus の学びだけでは通用しないという現実に直面し、自己の学修の浅さや机上の理論だけでは解決しない現実問題をヒシヒシと肌で感じ取ることになります。

In Campus の理論学習ではほとんどの場合、正解が示されますが、現場で起こっている問題は様々な要素が複合的・重層的

に複雑に絡み合っており、これが正解という単純なものばかりではありません。理論だけしか学んでいない学生にとっては、解決方法を見つけることはおろか、問題点を発見したり、整理したりすることすら難しいことも少なくありません。しかし、正解の定まっていない課題に立ち向かい、それを解決できる力こそが社会で求められる本物の能力であり、さらにそれを支える他者との協働、相互理解、それを支えるコミュニケーション能力、プレゼンテーション技術などが重要な能力となります。

こうした Out Campus での苦い体験や実践家を通して学んだ問題点は、学生にとっての新たな学修目標や幅広い学修課題となり、In Campus でさらに実践的でより深遠な学修を探究していくきっかけとなっていきます。一見、同じような内容の学修をしていても、実際に現場を経験したり、実践家の話を聞いた後では、学生の学修に向かう姿勢が大きく変化し、学びの奥深さが違ってきます。そして、再び実践の場へ……。

こうした In Campus と Out Campus のスパイラル学修、換言すれば『理論と実践の生成的融合』こそが、松本大学の特色ある教育手法であり、地域文化の伝統が今なお脈々と息づいている信州だからこそできる教育なのです。それは大都市圏のマンモス大学では決して真似することができない本学独自の学修展開であるとも言えるでしょう。

大学の力が 地域活性化の原動力に

一方、地域にとっても学生の学びや学生の持つ若いエネルギー、また教員の持つ専

門知識を活かした活動は、地域活性化のきっかけや原動力ともなっており、地域の多様な分野の方々や組織からも期待されるようになりました。まさに、本学が旗印に掲げる『地域立大学』としての“地域貢献”が「街づくり」「人づくり」「健康づくり」「特産品づくり」などの「地域づくり」として、実際の形となって姿を表したと言っても良いでしょう。たとえば入学当初、地域の方の目を見て話もできないどころか、満足に挨拶もできなかった学生が、学年が進みこうした活動を繰り返していくことによって、卒業する頃には専門的知識や若者らしい新鮮なアイデアを自ら説明したり、実践したりできるまでに成長し、地域の方々からも信頼していただけるようになります。地域の方々からの信頼感は、松本大学の理解や学生の評価となって、学生自身の自信となり、さらなる能力の向上や学修の広がりや深まりにつながるという相乗効果も上げています。

地域との連携教育によって、実際に地域が抱える課題を解決するというリアリティーのある学びが展開でき、学修の目的が明確になっているからこそ、学生の意欲的な学修が展開されていきます。バーチャルではなく現実世界の課題解決に実際に立ち向かい、結果を突きつけられ、そしてそれを地域の方から厳しくも温かく評価される。まさに「地域に学ぶ」「地域で学ぶ」教育がここにはあります。

こうした教育の原点とも言える学修展開ができることを私たちは誇りに思うと同時に、こうした教育を支えてくださる松本を中心とした長野県の皆様に改めて感謝したいと思います。

学問の魅力を伝える ～教員による出前講座～

本学の「地域に還元・貢献する」学びの一つに、教員による出前講座があります。地域や学校にお邪魔し、学問の魅力や最新の研究成果等をわかりやすく伝える教育プログラムです。高校生や中学生を対象に学問の面白さ、奥深さを感じ取っていただき、また進路決定の一助とするために出前授業を行うほか、地域社会で実施される学習会やシンポジウムなどに、講師・パネラーとして出向きます。これまでに多くの教員が出前講座を行い、高い評価を受けてきました。今回は、その一部を紹介します。



総合経営学部

総合経営学部では、「地域社会全体のマネジメント」を学部の共通目標にし、地域に密着した活動に積極的に取り組むことで、「地域貢献」という本学のミッションの実現を目指しております。総合経営学科では、経営を基盤に、会社等に所属する企業人・個人の生活である生活者という両方の視点から地域産業を捉えることを特徴としております。観光ホスピタリティ学科では、3分野（観光・地域・福祉）の特色と各分野の融合（重なり）を特徴としており、地域での実践を重視しています。

このように、総合経営学部では、両学科とも実践を通じて地域の人たちと大学の教員、学生がお互いに学び深めたことを、大学での教育にも反映しています。

出前講座についても理論だけではなく、これらの実践で培った“学び”を反映した内容となっています。私たち教員は、研究等で培ってきた知識や理論と、実践からの学びを融合させる

ことで、参加者に飽きさせない、具体的でリアリティのある講座を心がけています。

講座テーマ例

- 長野県のいろんな業界No.1
- “やっぱり正社員！”。結婚、子育てにかかるお金
- 学生によって商店街が元気になった
～まちづくりの秘訣～
- 外国人観光客が魅力を感じる観光コンテンツ
- 高齢者から地域がみえる一福祉を学ぶために～

（総合経営学部 広報委員 佐藤 哲郎）

人間健康学部

地域社会の「健康づくり」に貢献する栄養と運動指導のプロフェッショナルを育む人間健康学部には、健康栄養学科、スポーツ健康学科ともに様々な分野の専任教員がおり、精力的に研究・教育活動を行っています。多くの教員が地域や学校等で出前講座を行っています。その中からテーマをいくつか紹介します。

「輝く 管理栄養士の仕事」という講義では、栄養のプロフェッショナルである管理栄養士がどんなところで活動しているのか、仕事ではどのような知識やスキルが必要となるかを説明します。「効果的な健康運動実践法」では、現代生活における運動と健康の意義、運動とからだや心の健康の関係、健康な生活を送るための効果的な運動実践法

を具体的に解説します。これらの講義は、高校生らが自身の将来像を考える上で貴重で、また関心の高い内容となっています。

「バイオサイエンスと私達の生活との関わり」は、「万能細胞」や「メタボリックシンドローム」など、「これって実はどういうこと？」と思われる事柄を、頭の中でイメージしてもらえるように解説したもので、講義の分かりやすさは折り紙付きです。

そして「あなたと私の心と体を大切にするために」では、生命誕生の素晴らしさや性について考え、そこから自分自身や友達を守るために何が必要かを一緒に考えます。途中、大学生がロールプレイを実施し、その場での対応を考えたりもします。高校の教育現場で非常に需要の高い講義です。

（人間健康学部 広報委員 高木 勝広）

短期大学部

松商短期大学部は、「ビジネス」と「経営情報」を核とした16種類の多彩な「学び」を実現するフィールド・ユニット制カリキュラムによって、地域に役立つ人材の育成を目標としています。出前講座は、この「学び」を具体的に紹介する良い機会となっています。教員の担当する講座のうち、特に多く依頼のあるものを以下に紹介します。

〈キャリアクリエイト〉日本人は平均すると80歳前後まで生きるわけですが、皆さんはどのような人生を送りたいと思っていますか。また、就職するのであれば、人生の半分は会社で過ごすことになります。どうせなら快適なサラリーマン生活を送りたいものですね。今から自分の職業人としての人生を考えてみませんか？

〈マーケティングの楽しみ方〉よく売れている商品や人気のあるお店は、マーケティングの成功例です。講義では具体的な事例からマーケティングの解説をします。

〈売れるデザインの秘密〉色の効果とそれを利用したマーケティング戦略について、ロゴマークやパッケージデザインを参考に説明します。

〈東京ディズニーリゾート経営の秘密〉「夢と魔法の王国」東京ディズニーランドが誕生したのが1983年。「冒険とイマジネーションの海」東京ディズニーシーのオープンが2001年。開園から30年を超え、今や世界最大となったディズニーテーマパークは、この間、常に「1人5千円」という数字に支配され続けてきました。「あなたはディズニーランドでいくらお金を使いますか？」

（短期大学部 広報委員 山添 昌彦）

出前講座の一覧はホームページをご覧ください。 お問い合わせ・お申し込み先

高等学校関係の方

本学ホームページから「申込用紙(PDF)」を出力してご記入の上FAXいただくか、お電話でお申し込みください。
★松本大学入試広報室 TEL 0263-48-7201 FAX 0263-48-7291

その他各種団体の方

お電話でお問い合わせください。
★松本大学エクステンションセンター TEL 0263-48-7210

学生の社会的知識の向上に期待

ロータリークラブと連携し来年度から講座

全学教務委員会 委員長 岩間 英明

7月30日に、長野県下55クラブで構成される国際ロータリー第2600地区(以下RI2600という)と本学の間で教育連携協定を締結し、来年度から両学部・短期大学の1年生の前期選択科目として寄付講座を開講することになりました。ロータリーの会員を大学の正規科目の講師に招くのは全国でも珍しく、各界からも注目されています。



今回の協定締結は、RI2600の望月宗敬ガバナー(前学校法人松商学園常務理事)が、地域貢献を掲げ地域社会のリーダー養成を理念とする本学の教育活動に、「奉仕の理念を实践する」というロータリーの目的を生かそうとお考えくださったことがきっかけとなっています。その後、全学教務委員会との調整を経ながら、最終的には望月ガバナーのご提案にRI2600の各ク

ラブの皆様から積極的なご理解・ご賛同をいただき、驚くほど順調に協定締結が実現しました。

これまで本学は、アウトキャンパス・スタディやサポーター教員制度といった“地域に学ぶ”という視点を学修の大きな柱の一つに据えて教学展開してきました。今回、地域における各業界・業種の

トップリーダーでもあるロータリー会員の皆様のお話を直に聴く機会を得たことは、学生にとってはさらなる学びへの契機となるはずです。

また、講師の皆様の多彩な経験を通じた講義は、社会的経験がまだまだ乏しい学生の「社会人基礎力」とも言える社会的知識の向上とキャリア形成の一助となるものと期待しております。

さらには、現在大学教育改革の一つとしても位置づけられている「教養教育の充実」という面においても、本学はもとより大学教育そのものに新しい風を吹き込んでいただけるのではないかと考えております。

今後は①グローバルとローカル、②企業活動と地域社会・社会貢献、③イノベーション・専門性、④社会問題、⑤法律と企業モラル、⑥経済と企業経営、⑦仕事と働き方・生き方という視点から、学生の新たな学びを構築できるような授業開発に一層力を入れ、独創的で特色ある本学の教育の一翼を担う科目となるようにしていきたいと考えております。

サポーター教員・特別講義

サポーター教員制度は、地域や学外の名人・達人といわれる方や、ジャンルを問わずさまざまな分野で活躍する方々が、学内で講義をしたり授業支援を行う、本学のユニークな取り組みです。アウトキャンパス・スタディなどで実際の現場に出た時と同様の学修効果が期待できる「地域に学ぶ」スタイルで、学生にとっては社会経験豊富な地域の方々からお話を聞く貴重な機会となっています。昨年度は、登録者の中から延べ79名の方に、「信州の郷土料理」「介護

実技実習」「ディズニーリゾートの経営分析」「養護教諭の職務」などの内容で教壇に立っていただいたほか、サッカー・ソフトボールの実技サポート、華道・手話・ネイル等のアシスタントとして講義補助を行っていただきました。

またこれとは別に、教員が地域で実際に活躍されている実践家を担当授業に招く特別講義もあり、現実の問題・課題に迫る内容で学生たちを魅了しています。昨年度は正課内の授業に金融機関、農業、官公庁など多彩な分野から講師を招

き、「日本の財政状況～現状と課題～」「リゾートホテル経営」「ジビエ料理の講習」「ラジオ体操指導法講習会」といった専門的かつ興味深い内容の講義を延べ68回開講し、学生の知見を広げていただきました。

2014年度のテーマ例	
サポーター教員 (2014年度 延べ79回)	コミュニケーション能力の養成
	アウトドアスキルの指導
	茶道とおもてなしの心(茶道実習)
	酪農の実際(生産～食材へ) カウンセリング演習
特別講義 (2014年度 延べ68回)	生活とリスク管理
	私の将来設計とお金
	日本の文化を知る
	寒天及びゲル化剤一般の特徴について スポーツドクターの役割-スポーツ現場の実際-

TOPICS ■ 野沢菜わさびおやきを開発・発売

健康栄養学科 専任講師 矢内 和博

健康栄養学科矢内研究室と(有)あづみ野食品が共同開発した「野沢菜わさびおやき」を、8月1日に発売しました。研究室が開発した「わさび葉ペースト」と「きざみ葉ワサビ」を生地と具材に使用した風味豊かな商品です。(有)あづみ野食品とコラボした商品は5品目で、6次産業化を意識した商品開発体制を、約5年かけて整えてきた結果が軌道に乗ってきました。

ワサビ葉ペーストは安曇野勤農合同会社に製造を委託し、本年

度の生産量は1トンを超えると予想しています。アルクマそばの原料である焙煎そば粉EX同様、行き場がなく捨てられていたワサビ葉が活用できました。これからも問題解決型、地域貢献型の商品開発を発展させていきたいです。また、地域の食品関係の企業とのつながりも多くなってきてきました。学生の学びとしてインターンシップを引き受けていただける話もあり、学生が地元で活躍できる場をもっともっと広げていきたいと考えています。



産官学による健康増進プログラム 「からだアセスメント」を開始

エア・ウォーター梓川地域開発共同体×松本市立病院×松本大学

スポーツ健康学科 学科長・教授 根本 賢一

しなのエア・ウォーター株式会社を代表会社としたエア・ウォーターグループ4社で構成するエア・ウォーター梓川地域開発共同体(以下:梓川地域開発共同体)と、松本市立病院が業務連携協定を締結した上で、本学人間健康学部が全面協力し、健康増進と医療サポートを一体にした健康増進活動



を7月に開始しました。

この取り組みは、梓川地域開発共同体が指定管理者として受託している梓水苑と松本市立病院を拠点として、松本市立病院が実施する人間ドックや健診と、その検査結果を踏まえて本学が監修し、梓川地域開発共同

体が推進する個別の食事と運動による健康増進プログラム「からだアセスメント」を組み合わせたものです。プログラムの最大の特徴は、医療機関でのメディカルチェック後に、運動や食事の具体的なメニュー提供が可能であり、また、その後のフォローやフィードバックが専門家によって定期的に受けら

れることです。特に、運動面では、本学スポーツ健康学科の卒業生2名(健康運動指導士)が、最大10項目(体組成、骨密度、歩行分析、筋力評価など)で構成される身体機能評価を行い、個人に合ったトレーニングメニューの提供と、トレーニング指導まで行います。1度きりの指導では運動習慣が定着しないことも多いので、メニュー提供後も定期的に、栄養・運動講座を行うフォローアッ



プ教室の開催や、日々の運動トレーニング量が把握出来るようなシステムを備えるなどの支援体制も充実しております。

一貫した体制で介護予防から健康管理、そして医療サポートまでの安心のサービスを、公共の宿で提供するという、全国初の取り組みです。松本市が推進する「健康寿命延伸都市構想」による健康で長寿なまちづくりへも貢献できるものと考えます。

「道の駅」中条と連携し 地域活性化と学生教育を推進

長野市中条で県内初の連携企画型実習を実施

総合経営学部長・教授 室谷 心

松本大学と道の駅「中条」及び長野国道事務所は、長野県初の連携企画型の実習を実施することになりました。7月7日には本学と道の駅「中条」の指定管理者アクティオ(株)との間で「事業連携・地域活性化の推進に関する協定」を締結し、記者会見を行いました。

この協定は、道路利用者へのサービスが中心であった「道の駅」を地域の拠点として活用し、さらに大学と連携することによって、若者との交流をすすめる新たな価値の創出を期待するという、国土交通省の「道の駅を利用した地域活性化」事業の一環で締結したものです。会見では、護摩堂満長野国道事務所長、久保田高文長野市商工観光部長、岡部禎之アクティオ株式会社常務取締役よりご挨拶をいただきました。

総合経営学部ではこの「道の駅を利用した地域活性化」事業に積極的に参加し、地域貢献と学生教育を進めようとしています。道の駅のある中条地域は「山姥の里」として知られています。学生が“やまんば”の“や”と“ば”を組み合わせさせて「88(やまんば)プロジェクト」と名付け、中条地域の活性化に向けて①「子育ての神:山姥(やまんば)伝説の里」中条のお宝探し、②地域最大のイベント「むしくらまつり」の連携・協力

を始めました。

道の駅「中条」を運営するアクティオ(株)の皆様との議論は学生にとって刺激的な内容です。アイデアを取捨選択して商品化していく過程を実際に体験する機会は、総合的に経営を学ぶ総合経営学部の学生にとって、“実践で学ぶ”素晴らしい教育の場となっています。道の駅を拠点とした地域活性化と学生の教育の両面で、今後の成果にご期待ください。



充実した今夏の国際交流活動

この夏、本学の学生19名が海外へ飛び出し、語学の習得だけではなく、異文化理解のために様々な体験をしました。具体的には、湘北短期大学と共同で実施されるオーストラリアのニューカッスル大学での語学研修に13名、中国の嶺南師範学院(大学)でのサマーキャンプに3名、また、韓国の国立済州大学での短期研修、ドイツのハイデルベルク大学のサマー・コース、米国のメルビル大学の語学コースに、各1名の学生が参加しました。

一方、本学の短期日本語プログラムにも、韓国東新大学の学生と中国嶺南師範学院の学生合わせて11名が参加しました。また、引率の柳先生(東新大学)と李先生(嶺南師範学院)に短期大学部の科目「海外事情」を担当していただきました。さらに、本学の教員が海外の大学の科目を担当するプログラムも始め、今年は、嶺南師範学院の科目「世界経済論」と「貿易商務論」の集中講義を、9月に約3週間かけて実施しました。

上記のように短期ではあっても海外留学を進める目的は、グ

ローバル対応力のある学生を育成することにあります。このようなグローバル人材を育成する教育手法などを研究する学会として、グローバル人材育成教育学会があり、9月5日には同学会の中部支部大会が本学で開催されました。この支部大会では、スーパー・グローバル大学に選定されている明治大学やスーパー・グローバル・ハイスクールに選定されている長野高等学校の事例報告とともに、本学からは、短期大学部のニューヨーク市立大学ラガーディア校とのコラボレート授業の報告や、短期大学部を卒業後に済州大学に編入した学生の報告なども行われました。

このように、この夏、海外の大学への派遣や海外からの受け入れは、学生と教員合わせてかつてないほどの規模にまで拡大しました。グローバル化は今日の大学に求められる基本的な条件となっていますので、今後も学内の国際化を推進し、学生と教職員の意識改革を積極的に図っていきたくと考えています。

国際交流センター長 糸井 重夫

中国と韓国の学生が日本文化を学ぶ 本学でサマーショートプログラム実施

松本大学は7月26日～8月9日の日程で、「2015松本大学第1回サマーショートプログラム」を開催しました。このショートプログラムは2月のトライアル・プログラムを経て、今回初めて夏に実施したものです。日本語の学習、日本文化の体験、企業視察などの多様な内容を組み込み、本学の協定校である中国の嶺南師範学院と韓国の東新大学から、学生11名、教員3名の計14名に参加いただきました。

プログラムに参加した学生は、日本語クラスであいさつや自己紹介、そして簡単な会話を中心に学びました。日本語を勉強している学生も多く、流暢な日本語で会話を楽しんでいる様子が見られました。また、本学の教員から日本語による「経営学」「金融論」「マーケティング」「スポーツ社会学」「観光文化論」「調理科学」の6講座を受講し、日本の現状やシステムについても学びました。さらに本学の「海外事情I」を受講する学生や国際交流クラブのメンバーとディスカッションを行い、お互いの大学や国々の紹介も行いました。

参加者は様々なプログラムに松本大学の学生と一緒に参加し、学生から松本城や上高地、市街地の案内を受けるなどして交流を深めました。特に、8月1日に開催された「松本ぼんぼん」には、松本大学連の一員としてプログラム参加者全員が連に加わり

ました。中国や韓国ではこのような踊りのイベントはないということで、参加者はすぐに踊りを覚えて盛り上がっていました。

また、日本文化体験としてそばうちにも挑戦。そば粉からそばをうち、大きなそば切り包丁を使って四苦八苦する場面もありました。昼食には自分たちでうったそばをおいしく味わいました。



〈プログラム内容〉

- 日本語クラス
- 本学教員による授業
- 本学学生との交流、ディスカッション
- 松本市内見学(松本城、縄手通り、上高地等)
- 松本ぼんぼんへの参加
- 企業視察
- 日本文化体験(そばうち、温泉、茶道等)
- 長野県内(善光寺、戸隠、諏訪湖、霧ヶ峰)、東京都内視察
- 中国と韓国の教員からの本学の学生に対する講義

今回のサマープログラムでは中国と韓国、そして日本の学生が学びながら交流を深めることができました。お互いの言葉や国の違いを理解し、尊重しながらの交流は、双方にとって素晴らしい経験ではなかったかと思います。帰国時には全員の参加者から感謝の言葉をいただき、再会を誓い合いました。

(学生課・国際交流センター 関澤 一洋)

東新大から生中継 at Open Campus

韓国・東新大学に短期留学している椋間春佳さん(総合経営学部2年)が半期の講義を修了し帰国する直前のオープンキャンパス(8月2日開催)で、本学とSkypeで結び、高校生に向け留学生活についての紹介を行いました。本学からは、正規留学生のキムソヒョンさん(同学部4年)と東新大学からの交換留学生 リュウ デヨンさんが参加し、ときに韓国語を交えて意見交換しました。さらに、本学の学生に講義を行うために来日した同大学の柳 在淵副教授が登場し、日本の高校生たちに世界観を広げてほしいと呼び掛けました。椋間さんは、短期留学中にクラスで優秀賞を受賞しただけあって流暢な韓国語で話し、留学の成果を披露してくれました。(学生課・国際交流センター 田中 雅俊)

笑顔は国籍を超えて ～海外ユースサマーキャンプ参加報告～

6月30日から2週間の日程で、総合経営学部1名、短期大学部2名の学生とともに中国広東省湛江(チャンチアン)市の嶺南師範大学サマーキャンプに参加しました。今回のサマーキャンプは同大学が湛江市から支援を受けて世界各国から学生を招待するプログラムであり、タイの3大学から38名、日本の2大学から4名、計42名の学生が参加し、嶺南の学生ボランティア250名とタイからの留学生9名も関わる大きなイベントでした。湛江での2週間を振り返ります。

7月1日、湛江空港に到着。さすが中国最南端、猛烈な暑さ、街路樹は椰子でした。2日、日本語学科の陳先生に招かれ、2月に松本大学を訪れた同学科の学生、またこれから来日予定の学生約20名と先生方5名と顔を合わせた後、会計学専攻の1・2年の学生約30名と交流。その後「TDRの経営」を講義しました。広大なキャンパスは大きな



椰子の並木と鬱蒼としたガジュマルで緑美しく整備され南国情緒たっぷりです。3日、午前中にサマーキャンプの開会式とキャンパスツアー、午後はキャンプメンバーの交流イベントで嶺南を含む6大学それぞれの大学・自国紹介がありました。いずれも分かりやすい発表で、外国語学部の学生が通訳を担いました。本学の学生も、前日の夜に急ごしらえではあったものの、アイドル・アニメ・日本食という今流行の「クールジャパン」で盛り上げ、最後は「世界に一つだけの花」を会場全体で大合唱しました。4日は体



育学部の学生の演技鑑賞、スポーツ大会、3カ国の学生間交流、さらに映画「孔子」の鑑賞がありました。5日は世界的に有名な火山湖「湖光岩」も見学しました。

6日からキャンプ最終日の10日までは以下の通りのスケジュールでした。この間、日本語学科1～3年生の約50名に対して「会計学入門1」、「会計学入門2」を講義、また松本大学をテーマとした講演も行いました。

	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日
8:00-	中国 画描	基礎 中国語	古詩 通唱	雷州への 遠足	中国 書道
10:00-	基礎 中国語	中国 画描	中国 楽器演奏		古詩 通唱
14:30-	中国 ペーパー クラフト	中国 楽器演奏	中国 気功		閉会式 リハーサル
16:30-	中国 クッキング	中国 気功	中国 クッキング		

10日にキャンプの閉会式が行われ、学生一人ひとりに終了証が手渡されました。その後のパーティーでは、本学の学生が「中国語クイズ」を出題しこれが大盛況。3カ国の学生が入り乱れて名残を惜しみ、国籍を超えた笑顔にひたすら感動を覚えました。台風で滞在が2日間延びるハプニングもありましたが、学生にとっても私にとっても初めての中国は素晴らしい感動を与えてくれました。今後、一人でも多くの学生にこの感動を味わってもらえればと思います。

(松商短期大学部長・教授 山添 昌彦)

オーストラリア 国立ニューカッスル大学語学研修

8月14日から28日まで15日間の日程で、総合経営学部6名、人間健康学部1名、松商短期大学部6名の計13名が、姉妹校である湘北短期大学の学生22名とともにオーストラリア国立ニューカッスル大学に語学研修に訪れました。学生たちはホームステイのほか、大学での英語学修、ニューカッスル市内のフィールドトリップを体験しました。

ニューサウスウェールズ州で2番目に大きな都市であるニューカッスルは、シドニーの北、約2時間(電車または車)の距離に位置しており、都市機能と自然が融合した学修にも生活にも最適な環境です。自然園や公園が数多くあり、美術館、レストラン、カフェ、ショッピング・センター、また東海岸には素晴らしいビーチがいくつもあります。

そして国立ニューカッスル大学は、今年は創立50周年にあたり、オーストラリア国内でTop10に評価されるなど質の高いプログラムを提供し続けています。学部・大学院ともに幅広いプログラムが揃い、年間約30,000人(内留学生6,000人/80カ国)が学んでいます。

この語学研修の内容は完全オーダーメイドプログラムで、約30時間の語学授業とオーストラリア文化に触れる体験型アクティビティーが豊富に組み込まれています。学生はオール英語での授業はもちろんのこと、ホームステイ先でのコミュニケーションによって英語力が向上するとともに、異文化についても肌で感じることができます。初めて日本を飛び出る学生が多く参加しま



したが、どの学生も2週間を短く感じる程、充実した研修を送ることができました。今後の学生生活において、より一層の国際化に対する意識の向上と英語学修に取り組むきっかけとなったことでしょう。

(教務課 上條 直哉)



文部科学省

地(知)の拠点

大学COC事業

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)の選定を受けての最近の取り組みを紹介します。

災害対策へ本格始動 —防災に向けた本学の取り組み—

COC戦略会議議長 木村 晴壽



激甚災害と本学の支援活動

本学ではこれまで、新潟県中越地震をはじめとするいくつかの激甚災害について、様々なかたちで支援活動を行ってきました。特に、2011年3月に発生した東日本大震災に際しては、延べ人数にすれば膨大な数の学生・教職員が現地での支援活動に従事し、石巻市立大街道小学校での学習支援活動は今も継続しています。ところが、地震そのものの被害だけでなく何百年に一度あるかないかの津波被害だったにもかかわらず、現地で支援活動を続ける個人・団体は激減しており、日本社会は今や、ボランティアを中心とした息の長い支援活動をどのように機能させるかという、目に見えない大問題に直面しています。ボランティア活動を含め、災害を念頭に置いた地域づくりの推進は、この国のあり方にも直結する、社会的な重要問題なのです。

教育に位置づけられた “災害対策の地域づくり”

過去十数年の間に本学が行ってきた数々の災害支援活動は、あくまでも学生や教職員有志によるボランティア活動でした。大学の名を名乗っての活動ですから、もちろん大学と無関係ではありませんが、大学の教育活動・研究活動の一環に位置づ



けられてはいませんでした。しかし、頻発する自然災害を目の当たりにし、また本学が数少ないCOC大学であることを踏まえれば、災害対策を念頭に置いた地域連携活動は本学における教育・研究の一部でなければなりません。

このような考え方をもとに、本学では9月から“地域の災害対策”をテーマとした「PBL型授業」を開講しました。PBL型授業とは、座学とともに実践活動を重視した授業形態であり、学術的な体系を学ぶというよりも、現実の課題、それも特定の課題に特化している点に特徴があります。本学ではすでに2014年度から買い物弱者問題に焦点を絞ったPBL型授業を開始しており、2015年度から始動させたのが“地域の災害対策”PBLです(カリキュラム上の科目名称は「地域課題研究」)。学部横断的な授業として設置されているため、どの学部どの

学科の学生でも履修可能で、今年度は12名(うち4名は女子学生)が受講しています。災害対策に視点を据えた地域づくり、あるいは災害をキーワードにした地域連携が本学の教育にはっきりと位置づけられ、その第一歩を踏み出したのです。

災害対策チームと “防災士”資格は授業の一環に

“地域の災害対策”をテーマとする今年度のPBL授業は、変則的に夏期休暇中にスタートし、大学が位置する新村の地域づくりセンターとPBL授業とが協働で実施した地域防災訓練が、最初の実践活動となりました。8月25日に松本市消防団第11分団(新村)の方々や町会役員の皆さんとともに、消火体制に関する真剣な訓練が繰り広げられました。本学が所有する消火ポンプを学生が実際に操作しながらの訓練となり、上々の滑り出しと言えます。

このPBL授業を履修する学生には義務付けられている事項がいくつかあり、ひとつは松本大学災害対策チーム(仮称)のメンバーになることです。したがって、地域との消防訓練はそのまま、本学災害対策チームの立ち上げということになったのです。このチームの規律・技量を高めるためにも今後は、新村地区消防団分団の傘下チームとして組織されることも視野に入れて活動する予定です。

もうひとつ、PBL授業の履修者全員がトライしなければならぬことに、“防災士”資格の取得があります。本学は日本防災士機構が認定した養成機関として、2014年度から防災士養成講座を実施しており、本学学生だけでなく広く地域住民へも開放しています。PBL授業の履修者は、防災に関する座学の一環としてこの養成講座に参加し、なおかつ防災士の認定を受けるための筆記試験を受験しなければなりません。もちろん、試験に合格し“防災士”の資格を得ることが授業単位取得の条件です。

まずはPBL授業として本学の教育に位置づけられた“災害の地域づくり”が今後さらに進化することはもちろんですが、防災士養成講座についても、それを本学カリキュラムにどのように導入するかが次の課題になります。

「健康長寿」につながる研究成果を発表 第2回COC学術研究会を開催

大学院健康科学研究科長・教授 山田 一哉

6月27日に、本学で第2回COC学術研究会第9回健康長寿長野研究会を開催しました。昨年に引き続き松本市や長野県栄養士会の後援をいただき、大学COC事業の一環として開催しました。

学術講演会では、福井大学医学部の宮本薫教授から「幹細胞分化と再生医療」という演題でご講演をいただきました。最先端の再生医療について、おもに幹細胞からの機能性副腎皮質細胞の分化誘導について、非常にわかりやすく興味深いお話を伺いました。その後のシンポジウムのテーマは「健康長寿

の両輪～食と運動の基礎研究を中心に」とし、本学大学院の教員ら5名が発表しました。

またポスター発表では、本学教員・大学院生と信州大学農学部学部生・大学院生から14題の興味深い発表が行われました。厳正な審査の結果、信州大学の2名に加えて本学大学院2年生の塚田晃子さん(山田ゼミ)が「インスリン誘導性時計遺伝子とSIRTファミリーの発現相関」のテーマで、優秀発表賞を受賞しました。本学大学院生の研究レベルが高く評価されたことをとても誇らしく思います。

研究会の開催にあたっては、健康栄養学科の山田ゼミ・高木ゼミの3・4年生や大学院生が会場設営から運営全般にいたるまで大活躍してくれました。事務局にも大変お世話になりました。小規模な研究会とはいえ、トラブルもなくスムーズに会が運営できたことは、関わってくださった多くの人たちのおかげだと思っています。この場を借りてお礼申し上げます。



渡部暁斗選手にトレーニング法を学ぶ 本学で冬季競技ジュニア選手や指導者ら

大学院健康科学研究科 准教授 呉 泰雄

ソチオリンピックのノルディック複合個人ノーマルヒルで銀メダルを獲得した渡部暁斗選手(北野建設所属)が9月8日、冬季競技に取り組み成長期の選手に向けて、本学で講演と実技指導をしていただきました。これは相澤病院

スポーツ障害予防治療センターとともに開催する「ジュニアアスリートサポートプロジェクト」の5回目で、今回は「トップアスリートから学ぶ成長期スポーツ選手の基本的なトレーニングとコンディショニングについて」として本学が大学COC事業の一環で主催したものです。

第1部では渡部選手が「成長期に必要なコンディショニングの実技」というテーマで選手と指導者に講演されました。また保護者と指導者を対象に、私がスポーツ栄養学について講義しました。

続いて第2部で渡部選手による「トップアスリートからみた成長期のトレーニングの実践」があり、参加者は一流選手から真剣な表情で実技指導を受けていました。

プロジェクトの目的は(1)長野県の冬季スポーツ振興と競技力の向上を目的にジュニア世代の育成を行う(2)松本大学の冬季競技における夏季の練習・体力測定の出発点としての位置付け、および、スポーツ振興に寄与する施設としてのPR活動(3)ジュニア年代に相応したスポーツ障害の予防とトレーニングプログラムの提供です。当日は長野県の冬季スポーツジュニア選手と保護者、指導者だけでなく、他の競技のジュニア選手の保護者の方々の参加もありました。



COCインフォメーション

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)として、下記の講座を開講します。ぜひご参加ください。

『地域産品デザイン講座』(全6回)開講

本学では昨年度に引き続き、「地域力を高める」ために「消費者の心をとらえる」「商品力を高める」ことを目指して『地域産品デザイン講座』(全6回)を開講します。

2015年 地域産品デザイン講座 (時間は全て19:00~20:30)

開催日	講師	タイトル
第1回 9月30日	米山 聡 氏 (スドー・ジャム マーケティング本部) 倉澤 聡 氏 (松本市都市デザイン戦略支援アドバイザー)	2015 講座オリエンテーション (2014 年度実施の基礎講座のまとめ「地域産品をデザインするために大切なこと」)
第2回 10月15日	渡邊 恭子 氏 (開運堂 常務取締役) 倉澤 聡 氏	想いを伝え魅力が伝わる商品デザインとストーリー創出 パッケージの実例から発注者の想いとデザインを考える
第3回 10月28日	米山 聡 氏	商品デザインとマーケティング 地域商品の魅力を伝えるための戦略と戦術
第4回 11月12日	梅川 茜 氏 (デザイナー) 倉澤 聡 氏	商品のグラフィックデザイン ～商品ストーリーが顧客に届くデザイン～ 良いデザインを考案するためにデザイナーが求めるものとは
第5回 11月24日	梅川 茜 氏、米山 聡 氏、 倉澤 聡 氏	地域産品デザイン実践のためのワークショップ パッケージデザインをイメージします。
第6回 12月10日	梅川 茜 氏、米山 聡 氏、 倉澤 聡 氏	地域産品デザインに対する発表会 パッケージデザイン案の発表と考察

*ご希望の講義のみの受講も可能です。
ご希望の方はCOC事務局(TEL0263-48-7200)へご連絡ください。

人間健康学部健康栄養学科主催COC公開特別講演会 お腹はどうして空くのか? 食欲増進ホルモン「グレリン」の役割

[日 時] 2015年10月9日(金)
16:50~(受付16:30~)
[会 場] 松本大学524教室
[講 師] 児島 将康 氏
(久留米大学分子生命科学研究所教授)

COC公開特別講演会 3世代にわたる骨粗鬆症の予防法

[日 時] 2015年11月20日(金)
16:50~(受付16:30~)
[会 場] 松本大学5号館 524教室
[講 師] 廣田 孝子 氏
(京都光華女子大学健康科学部健康栄養学科教授)

上記特別講演会を聴講ご希望の方は、講演名、ご住所、お名前、電話番号、参加人数を明記の上、FAX、e-mail又はハガキでお申し込みください。

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL0263-48-7200 FAX0263-48-7290
e-mail coc-j@matsui.ac.jp

》 保育園での運動能力測定の意義と想い

スポーツ健康学科 教授 中島 弘毅

1985年をピークに子ども達の体力は低下しています。日本学術会議においても子ども達の体力低下を懸念し、子どもを元気にするための環境づくり、運動・スポーツ推進体制の整備などに関する報告書を出すと共に、運動・スポーツ適正実施のための基本方針(平成23年)を発表しています。その



報告書では、運動は身体へ及ぼす影響のみならず、脳そして他者とのコミュニケーション能力に対しても良い影響があることを指摘しています。運動は脳の発育形成にとっても重要な役割を果たしているのです。

中島ゼミでは園庭環境(園庭が芝生であるか否か)に着目して、幼児の運動能力測定

を行い、園庭が芝生であると園児の身体活動が増加することを明らかにしました。現在、松本市内のF保育園にご協力頂いて、毎年幼児の体力測定、活動量調査、足裏の測定などを継続的に行って

います。その調査結果は学生が卒業研究としてまとめ、また、保育の参考にして頂くようにデータを園、保護者にお返ししています。

ところで、幼児の運動能力測定を行うにあたって、心がけていることがあります。それは、子ども達に楽しく運動能力測定に参加してもらうことです。運動能力測定であっても幼児にとっては、楽しい運動の時間になること、お兄さん、お姉さんとの交流の時間になることが、実は幼児に運動好きになってもらうためには重要であるからです。

この様な中で、学生は測定及び分析について学び、園の先生方との対応、幼児との関わり方を学んでいます。そこには、園児、学生ともに笑顔があふれています。

私達は、調査活動を通して保育に対して貢献し、子ども達が楽しく体を動かし、笑顔で運動する機会が増加することを願っております。是非、多くの皆さんに子どもに対する関心とかかわりを持ってもらい、子ども達の運動環境の充実と健全な発達がなされるように、これからも学生と調査活動を続けていきたいと思っております。

》 的確に表現・発信する力を養成

松商短期大学部 准教授 木下 貴博

松商短期大学部木下ゼミナールでは、毎夏、1年のゼミ生を対象としたゼミ合宿を実施しています。専門ゼミナールIは後期開講科目ですが、その最初の一步をゼミ合宿という形で踏み出し、交流を深め、後期からのゼミナールへ向けて良いスタートを切ることがその趣旨となっています。本年度は、8月10日からの1泊2日で白馬へ行き、宿泊は「グリーンゲールズ」さんにお世話になりました。白馬は、昨年11月に長野県神城断層地震が発生し、多くの方々が被災された地でもあるため、道中ではその爪痕も見つめながらのゼミ合宿となりました。

木下ゼミは、簿記会計を学習の中心としながら、学んだ内容をいかに的確かつ分かりやすく表現・発信できるかにも力を入れています。本合宿では、この表現・発信力を養成するためのプレゼンテーション研修が主な活動となりました。高校までの

座学を中心とした授業においては、リサーチや、それに基づいて自らの考えを表現する機会に恵まれているとは言えないにも関わらず、社会との接点をもった途端、その力が大きく必要とされます。会計の知識だけに留まらない、いわゆる社会人基礎力の育成もゼミナール活動の役割となります。また、松本で税理士業務にあたっておられる太田聡氏を招き、会計実務や社会人として必要となる力について、グループワークを交えながらの講演もしていただきました。

合宿は、たった1日とはいえ、共同生活を送り、分刻みで様々なアクティビティを交えた非

日常の環境で学ぶことができる貴重な機会です。もちろん、発信する力、表現する力は一朝一夕に身に付くものではありません。しかし、このような密度の濃い体験が、学内での今後のゼミナール活動に対する学生個々の理解や学習態度に与える影響は計り知れません。ゼミナール活動の始まりとして、本年度も大変有意義な時間を過ごせたことに感謝したいと思います。



自分の遺伝子はどのタイプ？ 実験教室で明らかに 「ひらめき☆ときめきサイエンス」8年連続開催で参加者100名超す

大学院健康科学研究科長・教授 山田 一哉

8月29日に、「自分の遺伝子型を調べてみよう～2015～」というプログラムで、第8回目となる「ひらめき☆ときめきサイエンス」実験教室を開催しました。高校生16名と小中学生各1名とその保護者1名が参加しました。また、日本学術振興会から2名の方が見学に来られました。

参加者の唾液から DNA を調製して、「お酒に強いのか、弱いのか」「太りやすいかどうか」「短距離型筋肉か長距離型筋肉か」に関する遺伝子の一つを選んで DNA 型をタイピングする内容です。参加者は、実験で自分の DNA を目に見える形で沈殿させたときや



自分の遺伝子型が明らかになったときは大いに盛り上がり、互いに一喜一憂していました。ティーチングアシスタントの院生・学生達も先輩として適切に指導することができ、高校生の良き相談相手になっていました。

実験教室は2008年に初めて開催し、以来8年連続で行って来ました。なかなか人が集まらず苦労することもありましたが、今年、参加者が通算で100名を超えて計110名となりました。中には、高校時代に本教室に参加したあと、健康栄養学科に入学し、私のゼミに所属してティーチングアシスタントとして実験教室の運営に関わった学生も少なからずいます。そういうサイクルができたのは嬉しいと感じています。

私が代表者として行う実験教室は今年度で終了することにし、次年度以降は高木勝広教授にバトンタッチして装いも新たに開催する予定です。8年間の長きにわたり、開催にあたってお世話になりましたすべての関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

地域に向け「おいでよ♪松大健康教室」開催 健康栄養学科学生が学びの成果を披露

健康栄養学科長・教授 廣田 直子

7月11日、本学で「おいでよ♪松大健康教室」を開催しました。これは健康栄養学科の3年次科目である栄養教育実習の総まとめとして実施したものです。地域の皆様を中心に39名が参加してくださいました。

健康教室は、食育SATシステムによる食事診断・メタボ体験・MYスポーツドリンクづくりなどの「体験コーナー」、子ども向けの「ミニ劇場」、高齢者向けの「お達人教室」、そして「運動指導」の大きく分けて4パートで構成しました。体験コーナーとミニ劇場は、栄養教育実習の中でグループごとに対象としたいライフステージやテーマを決め、プランニング、指導案作成、教材製作などを進めてきたものです。お達人教室は本学科の花岡佐喜子准教授が担当する応用栄養学実習の成果発表の場として組み入れ、運動指導はスポーツ健康学科・田邊愛子専任講師のゼミナールの4年生2名に協力していただきました。

運営面では各班から選出された広報委員と実行委員が、この日まで空き時間を利



用して作業を進めてきてくれました。マツナビ(学生スタッフ)など、大学のなかで体験した様々な活動の成果を発揮してくれたことを、大変嬉しく思います。

数回分の授業のなかで立案と作業を行い、十分とはいえませんが、当日はどの班もリハーサルの時よりもブラッシュアップされ、随所に工夫がみられました。

この企画でお世話になりました大学事務局の皆様、健康栄養学科の諸先生、ありがとうございました。そして、地域の皆様には、心より感謝申し上げます。地域の皆様のご理解があってこそ成り立つこうした教育を今後につなげていきたいと思っています。



“ものづくりの魅力” 提供しました! まつもと広域ものづくりフェア開催 管理課長 赤羽 雄次

7月18日、19日の2日間、本学を会場に「2015まつもと広域ものづくりフェア」が開催され、多くの来場者で賑わいました。本学が会場となって6年目(通算で16回目)となる本イベントは、自治体・産業界・教育機関・商工団体が協力して運営し、地域の子どもたちに、ものづくりや理工学に関心を持ってもらうことにより、将来この地域のものづくり産業を担う人材が育つようにとの思いから開催されています。

フェア期間中は天候にも恵まれ、延べ15,100名が来場し、企業、団体等による展示・デモンストレーション・体験試乗会や多様なものづくり体験コーナーを楽しみました。ものづくり体験コーナーには38種類のメニューが用意され、本学からは毎年好評の「キッズプログラミング教室」、「産学連携コーナー」に加え、新メニューとして「3Dプリンター体験コーナー」、「センサーを使ったプログラミング体験コーナー」、「ポリ袋で料理を作ろう」、「身近な物の放射能データを作ってみよう」の6コーナーを設けました。小中学生を中心とした参加者は、ものづくりの楽しさや面白さを実感したようです。

この他に、本学から「地元グルメコーナー」や「東日本大震災復興支援古本市」を出展し、こちらも大変な盛り上がりを見せていました。地域貢献を掲げる本学として、次年度以降もぜひ取り組みたいイベントです。





話と和と輪、想像と創造の空間 地域づくり考房『ゆめ』



「地域づくり考房『ゆめ』は、学生が大学での学びを活かして地域と連携し、課題解決に向けて主体的に活動することを支援しています。主に4つの取り組み(①学生の関心、問題意識から生まれた企画実践②地

域との協働でプロジェクトを企画実践③地域で企画される活動への参加・支援④地域づくり考房『ゆめ』の自主事業)があり、学生たちが積極的に地域づくりにかかわっています。今回は3つの活動をご紹介します。」

中野市からの研修ツアーをコーディネートしました



8月3日に、中野市ボランティア連絡協議会の視察団27名が本学を訪れました。中野市でも若者(中高生)を巻き込んだボランティア活動を展開したいと考えており、地域づくり考房『ゆめ』ならびに松本市上土における本学と地元商店街の取り組みを視察し、参加しやすい事業のイメージや若者へのアプローチを学ぶことを目的としていました。

まず、考房『ゆめ』の廣瀬豊運営委員長が、『ゆめ』を拠点に地域の子育てやスポー

ツ、食育、障がい者とのコミュニケーションなど、それぞれ関心のあるテーマで活動する学生の現状を紹介しました。学生をサポートする教職員と、協働関係にある公民館や福祉ひろば、企業が連携し、学生自身が学び成長できる松本大学ならではの学びの特長を説明し、『地域のなかで学生が考えて実践する事で自分に何が足りないか気づき、仲間との協働で自分に自信をもつ』という教育的な側面も紹介しました。

午後は上土に移動し、大正ロマンのまちづくりをコンセプトに商店街と松本大学白戸研究室がほぼ10年かけて積み上げてきた街づくりを学びました。

参加者からは「地域の方々や学生が仲良く、楽しそうに取り組んでいる様子が伝わってきた。」などの感想が出て、学生たちに明るい希望を抱いてくれたのがとても印象的でした。

(地域づくり考房『ゆめ』課長 白井 健司)

“もったいない”の心で「食品ロス削減」にチャレンジ! 「いただきます!!」がリメイク料理を考案

このプロジェクトのメンバーは、健康栄養学科1・2年生です。これまで多様な取り組みを展開してきましたが、本年度はプロジェクトの名称も変え、「残り物を活用したレシピと野菜などをまるごと使用したレシ



ピを考案する、リメイク料理を考案し、料理教室を開いて地域の方々との交流を行うこと]を中心に進めてきています。

松本市環境政策課と連携して、食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」の削減をめざし、独自のアイデアによる工夫を加えながら、レシピ提案に取り組んでいます。切り口は「まるごとクッキング」と「リメイク料理」です。

その成果の一部は松本市の「広報まつもと」に掲載され、合わせてプロジェクトの活動についても紹介していただきました。

8月17日には、新村公民館で小学生の親子向けに料理教室を開催し、自分たちの成果を伝えました。教室には12名の子どもたちと8名の保護者等が参加してくださいました。こうした交流を通して、コミュニケーション能力の向上やリーダーシップも身に付けようと、精力的に活動しています。

(健康栄養学科長・教授 廣田 直子)

今年も学生たちが花火大会を盛り上げました すすき川花火大会プロジェクトが活動

松本市薄川で行われる「すすき川花火大会実行委員会」から、昨年に引き続き今年も「学生の視点と発想で新風を吹き込みたい」と協力依頼がありました。

すすき川花火大会は諸事情により2007年から中止となっておりましたが、近隣住民の強い思いを受け2011年から復活した花火大会です。

昨年取り組んだ学生が中心となり今年も12名のメンバーで活動しました。実行委員会では学生が参加しやすいように定例会議を松本大学で行うことや、実施する日時も調整していただけることになり、昨年以上に積極的に取り組むことができたと思います。ポスター・チラシ・うちわなどの企画・デザインから、オープニングの演出、写真・絵画コンテストなど、学生たちは多くのアイデアを提案し、花火大会をより楽しいイベ



ントにすることができました。

今年のテーマは「つながろう!松本の夏」でした。新たな企画のセイジ・オザワ松本フェスティバルと一諸に松本を盛り上げていこうと小澤征爾総監督が指揮するブラームス交響曲第4番の曲に合わせイメージした花火をはじめ、3600発の大輪の花火が夜空を彩りました。打ち上げのつど学生も音と彩りに大歓声をあげていました。翌日は早朝から地域や実行委員会の方々やすすき川の清掃活動にも参加しました。

松本地域の住民から愛される「すすき川花火大会」に関わった学生たちは、素敵な花火の風景と、多くの方と関わって成功させたこの活動をいつまでも忘れないと思います。

(地域づくり考房『ゆめ』 浅川 三枝子)

●今回紹介したプロジェクト●

【すすき川花火大会プロジェクト】

学生がすすき川花火大会の実行委員会に加わり、オープニングや絵画コンテスト、抽選会などの企画、ポスター・チラシ作成、ラジオでの告知などを通して花火大会を盛り上げます。

【◎いただきます!!】

松本市環境政策課と連携して食品ロス事業に取り組み、リメイク料理の考案や、残り物活用・野菜まるごとメニューでの親子料理教室を開催するなど精力的に活動しています。

地域の健康づくりを支援する 地域健康支援ステーション



地域健康支援ステーションでは、地域の健康づくりを栄養と運動の両面からお手伝いしています。最近の活動を紹介します。

管理栄養士スタッフ 飯澤 裕美
健康運動指導士スタッフ 赤津 恵子

町の保健指導員研修会の支援をしました



2つの町の保健指導員会から本学の施設を利用した健康づくり研修会の要望があり、体験型の研修会を実施しました。

8月3日は半日コースで軽井沢町保健指導員18名が来学しました。はじめに健康づくりでの運動の意義について講義を行った後、体育館に移動してロコモティブシンドローム予防をテーマに実技指導を行いました。まずロコモテストを実施して自分の体力を客観的に把握し、ロコモ予防のために家庭で手軽にできるレジスタンストレーニングとストレッチングの方法を指導し実践しました。皆熱心に取り組まれ、関心の高いテーマであることを実感しました。続いて食生活の講義を行いました。食事バランスガイドを使った料理の組み立てや、水分補給、清涼飲料水についてなど、食品モデルを使いながら解説しました。参加者からは、塩や油や脂肪酸など日ごろの食生活で疑問や不安に思っていることなどの質問が出て、話が弾みました。



8月31日は1日コースで立科町の保健指導員15名が来学しました。午前はトレーニングルームで機器を使って体力測定をしました。学生のサポートで個別に筋力、持久力、柔軟性などを測定し、自身の体力を客観的に把握します。また体力に応じて家庭でもできるトレーニング方法も紹介しました。午後は食育SATシステムによる食事診断を行いました。並べられた料理モデルの中から料理の組み合わせを選んでトレーに並

べ、センサーに載せると即座に栄養バランスが表示されます。その結果をスクリーンに映し出し、これを加える?あれを減らす?など、意見を出し合いながらバランスの良い料理の組み合わせについて勉強しました。

参加者からは「運動を毎日続ける事の大切さと難しさを実感しました」「自分自身の健康づくりだけでなく、家族や地域の皆さんにも伝えて健康長寿を目指していきたい」などの感想をいただきました。

ものづくりフェアで「パッククッキング」ブース担当



7月18日に、本学会場で開催された「ものづくりフェア」において、長野県栄養士会中信支部と共催で「パッククッキング」ブースを担当しました。参加者は親子連れですが調理をするのは子どもたちです。健康栄養学科の学生がお手本を見せて手順を教えてください。ポリ袋に食材料と調味料を入れて口を縛りよくもんで混ぜます。料理というより子どもたちは遊び感覚で取り組みます。その袋を大鍋と一緒に入れてぐつぐつと30分程度煮るとカレーライスとオムレツができあがります。できあがった料理は袋を破り盛り付けてその場で試食しました。一つの鍋で数種類の料理が一度にできるため、災害非常時の食生活支援の方策の



一つとして日本栄養士会が提案している調理法です。参加者には「焦げつく心配もなく親子で楽しめる調理法ですね」と楽しんでいただけました。

障がい者を対象にレクリエーションを実施



中野市社会福祉協議会から障がい者を対象にしたレクリエーション講師の依頼を受け、8月5日、中野市立中野小学校で行いました。スポーツ健康学科の学生1名も参加して知的・身体等の障がい者の方、高校生ボランティアなど約50名を対象に、道具を使ったレクリエーションを実施しました。40色のペンを揃える「ペン交換」での交流の後、4チームで競う「すきやぎづくり」ゲームなど3種目を行い、参加した方々からは「楽しかった」「もっとやりたかった」、協議会職員の方からは「今後の参考になった」との感想をいただきました。

運動による健康づくり支援をしています



4月以降地域健康支援ステーションが各地域や団体からの依頼に応じて行った活動は次のとおりです。

イベント内容	実施回数(回)	対象者(延人)	実施内容(話と運動体験)	実施場所
公民館定期指導	42	710	介護予防、体力アップ	公民館6カ所
福祉ボランティア研修	1	20	介護予防、体力アップ	A村健康センター
企業研修	2	50	新規社員交流レクリエーション、仕事中の運動	B企業
地区住民研修	2	110	農作業に対応した運動	C地区、D地区各1
障がい者レク大会	1	50	レクリエーション	E市立小学校
生活指導員研修	1	18	ロコモ予防	本学
保健委員会地区活動	1	20	体力測定	本学
地域食生活改善推進員ステップアップ研修会	1	38	介護予防	松本合同庁舎
デイケア施設	4	65	介護予防	Fふれあいセンター

皆さまのお近くで、学生や専門スタッフ(管理栄養士・健康運動指導士)がお手伝いできることがありましたら、是非お声をかけてください。

インカレで団体優勝!!

～ラート競技部 発足4年目の快挙～

「第11回全日本学生ラート競技選手権大会」が8月29日～30日に琉球大学体育館で開催され、本学からは団体3チーム、総勢10名の選手団が出場しました。松本大学ラート競技部が同好会から部に昇格して4年目、団体の優勝という快挙を成し遂げました。

本学キャプテンの大島暢君(スポーツ健康学科3年)が今大会の実行委員長に抜擢。連盟本部でも主管大学でもない本学学生が大役を担うという他競技では考えられない状況でしたが、終わってみれば、11回大会という浅い歴史の中で出場大学の連携と、顔の見える学生間交流が大会を成功裏に導いたと感じています。

『ラート』というスポーツに魅かれて部を立ち上げ、練習に励んだ先輩・現役選手の頑張り、新入部員の身長に合わせ多様なサイズのラート器具を購入してくださった本学後援会の応援、そしてラート運動の普及に奔走し、コーチとして東京から足を運んでいただいている森更紗(全日本代表)コーチ、部の立ち上げからご尽力いただいた立岡正明コーチ



ラート競技部顧問
犬飼 己紀子

(富士電機)、地域のラート体験会で学生に拍手を送ってくれる子どもたちの瞳、全てが選手の力となり、今回の快挙を引き寄せたと思います。応援ありがとうございました。

大会結果

団体総合

- 優勝 松本大学A
- 第2位 筑波大学A
- 第5位 松本大学B
- 第9位 松本大学C

女子個人総合

- 1位 月岡 美穂 (スポーツ健康学科3年)

男子個人総合

- 2位 大島 暢 (スポーツ健康学科3年)
- 3位 安藤 啓太 (スポーツ健康学科3年)

軟式野球部

全日本大会で第3位!

松本大学軟式野球部は、8月14日から長野市のオリンピック・スタジアムをメイン会場に開催された、第38回全日本大学軟式野球選手権大会に県代表として出場しました。

初戦は東都代表の強豪、国士舘大学と対戦し、5対0で好スタートを切りました。その後は、吉備国際大学(中国代表)・神奈川大学(南関東代表)戦共に、9回裏あるいは特別延長(タイブレーク)の10回裏に逆転サヨナラ(3対2)という劇的な形で勝利し、ベスト4進出を果たすことができました。迎えた準決勝、北関東代表の白鷗大学戦では、3点によく抑えたもののチャンスで1本が出ず、3対1で敗れました。

結果、本学は、前年度優勝校の帝京大学と並び全国3位(優勝校・白鷗大学、準優勝校・同志社大学)で大会を終えました。部史上初の全国ベスト4進出という好成績は、部員にとって大きな自信になるでしょう、否応なしに追われる立場になりますのでいっそう頑張ってくれるものと思います。



最後に、今回の好成績に当たり、学生課はじめ関係者の皆さんの多大なる応援がありましたことを記し、あらためて御礼申し上げます。 (軟式野球部部長 等々力 賢治)

硬式野球部

関甲新学生野球連盟 秋季2部リーグ戦

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	9	5	土	松本大学 - 宇都宮大学 16 - 11	12:00	松本大学
		6	日	宇都宮大学 - 松本大学 0 - 10	12:00	
第3節	9	19	土	作新学院大学 - 松本大学 9 - 1	12:30	平成国際大学
		20	日	松本大学 - 作新学院大学 9 - 3	10:00	
第4節	9	26	土	常磐大学 - 松本大学	12:30	常磐大学
		27	日	松本大学 - 常磐大学	10:00	
第6節	10	10	土	松本大学 - 茨城大学	12:00	常磐大学
		11	日	茨城大学 - 松本大学	9:30	
第7節	10	17	土	松本大学 - 埼玉大学	12:00	松本大学
		18	日	埼玉大学 - 松本大学	12:00	

*球場の変更がある場合があります。

サッカー部

北信越大学サッカーリーグ(後期)

	対戦校	対戦日/時間	会場	勝敗
後期第1節B	新潟医療福祉大学	9月6日 10:15	松商学園総合G	○2-0
後期第2節A	新潟経営大学	9月12日 11:30	緑フィールド(新潟県)	●1-2
後期第3節A	金沢星稜大学	9月20日 10:00	星稜運動グラウンド(石川)	●0-4
後期第4節B	北陸大学	10月4日 10:15	松商学園総合G	
後期第5節A	金沢学院大学	10月10日 10:00	石川サッカー場(石川)	
後期第6節A	新潟大学	10月18日 13:45	鶴ヶ島スポーツセンター(新潟)	
後期第7節B	富山大学	11月1日 13:00	鶴ヶ島スポーツセンター(新潟)	

*硬式野球部、サッカー部ともに試合結果は9月20日現在のものです。

ハンドボール部

男女とも1部昇格!

8月28～30日に石川県で行われた北信越大学ハンドボール秋季リーグにおいて、松本大学ハンドボール部が男女ともに全勝にて1部昇格という快挙を成し遂げました。



大学からハンドボールを初めてみようという人は大歓迎です。

(ハンドボール部部長 田邊 愛子)

スキー部

ジャンプ岩淵“悔しい表彰台”

8月29日に白馬ジャンプ競技場で開催された、2015NBS杯女子白馬ジャンプ大会(ラージヒル)に出場した岩淵香里さん(人間健康学部4年)は、第3位(97.5m/101.0m)でした。岩淵さんは卒業後も県内の企業チームでジャンプ競技を継続することになっており、2018年の平昌オリンピック出場を目指します。(スキー部部長 齊藤 茂)

陸上競技部

日本インカレで健闘

9月11～13日に大阪市で開かれた「第84回日本学生陸上競技対校選手権大会(通称:日本インカレ)」に選手2名が出場し、女200mで準決勝に進出しました。また、9月5、6日に松本市で行われた「第68回長野県陸上競技選手権大会」では男1600mリレーで4連覇を果たしたのを始め、男女合わせて8種目で優勝を飾りました。

【陸上競技部】主な大会結果

◇第84回日本学生陸上競技対校選手権大会

- ・男子400m 浦野 泰希(体育学部3年) 予選48秒47(敗退)
- ・女子100m 瀧澤 祐未(スポーツ健康学科4年) 予選12秒30(敗退)
- ・女子200m 瀧澤 祐未 予選25秒17(準決勝進出)、準決勝25秒30(敗退)

◇第68回長野県陸上競技選手権大会(優勝種目のみ)

- 【男子2種目】
- 400mハードル・1600mリレー
- 【女子6種目】
- 100m・200m・400m・100mハードル・400mリレー・1600mリレー

女子ソフトボール部

6年ぶりに全国1勝!王者日体大にあと一歩!!

三重県伊勢市において8月28日から開催された第50回全日本大学ソフトボール選手権大会は、本学にとっても10年連続10回目の記念すべき大会です。1回戦は天理大学を相手に毎回安打を浴びせ8対1(5回コールド)で快勝しました。本学にとっては6年ぶりの全国大会での勝利であり、過去5年間の卒業生の悔しさを一気に払拭するような圧勝でした。そして2回戦はインカレ最多優勝回数を誇る日体大。序盤こそ名前負けしてか4点のリードを許しましたが、落ち着きを取り戻した中盤以降は逆に本学が試合の主導権を握り、6回表について4-4の同点、さらに逆点のチャンス。日体大も思わぬ展開に慌てている様子でしたが勝ち越しはならず、逆に6回裏はエラーも絡み3点を献上してしまいました。4-7となった最終回、本学も意地の1点を奪い取り、なおも一打同点まで王者を追い込みましたが追撃もそこまででした。しかし、選手の得た自信は大きく、今後の活躍を予感させる敗戦であったと思います。ご支援賜りました関係各位には心より御礼申し上げます。(女子ソフトボール部部长兼監督 岩間 英明)



30年以上連続出場で特別表彰も 全国私立短大体育大会で好成績

短期大学部 学生委員 川島 均

東京都内で連続猛暑日が観測されていた8月第1週に、第50回全国私立短期大学体育大会が東京、千葉、神奈川の各地で開催され、松商短大生もおおよそ30名が出場しました。

今年は男子卓球シングルスおよびダブルス、男子バドミントンシングルス、女子ソフトテニス団体で、それぞれ第3位になるという快挙でした。一方、昨年Bリーグで3位だった女子バレーボールは、今年はより強いAリーグに入り、予選ブロックで2試合とも惜しくも負けてしまうという結果でした。私が引率した女子バスケットボールも1回戦負けでしたが、やや実力が上の相手チームにかなり食い下がり、諦めないゲーム展開をしてくれたのは見ていて非常にすがすがしかったです。いずれにせよ、短大生活の忙しい勉強や就職活動の合間を縫って(あるいはその時間を削って?)練習した成果として誇りにしてもらいたいと思います。

なお、第50回の記念大会ということで、本学も30年以上連続して出場している数少ない短大(14校)として特別表彰されたことを付記するとともに、いつもご支援くださっている関係の皆さまには厚く御礼申し上げます。



News & Topics

「デパートゆにっと」を開催

長野県商業教育研究会が主催し本学が共催する高校生同販売「デパートゆにっと」が、8月18~19日に長野市の「ながの東急百貨店」で行われました。この取り組みは、商業を学ぶ全国の高校生が地域の特色を生かした商品を開発し、一堂に会して販売する活動です。そのための学び



の場(マーケティング塾)を本学が提供し、昨年12月から長野県内の高校生がマーケティングの基礎知識やビジネスマナー等の多くの学習を積み上げて臨みました。当日は14校の高校生が上質のおもてなしをモットーに販売を行い、多くのお客様で賑わいました。また3回目を迎えた今年は、OBである本学の学生もアシスタントとして準備段階から参加しました。この活動は高大連携教育の優れた事例としても注目されています。(観光ホスピタリティ学科 教授 大野 整)

恒例となった新村のひまわり



近年テレビニュースの背景に映し出される本学のひまわり畑。今年は7月最終週の前期試験明けから満開を迎えました。天候の影響で少々開花が遅れ、学生が花を望めたのは試験の緊張が解けた頃でした。8月1、2日は観光ホスピタリティ学科の学生が準備して

いたひまわり祭りを開催しました。今年の催しは念願のひまわり迷路、ポストカード印刷、新村保育園児の絵画展、野菜市、開発した総菜パン「ひまわりパン」の販売、アルピコ交通のキャラクターグッズ販売、と充実したメニューでした。また、今回初めて上高地線に「新村のひまわり」というロゴの入ったヘッドマークをつけた電車が走りました。たった2日間でしたので、この写真を撮れた方は記念となる貴重な映像です。(観光ホスピタリティ学科 准教授 中澤 朋代)

院生の研究が長野県科学振興会助成金に採択

一般財団法人長野県科学振興会の科学振興会助成金は、長野県内で科学研究を行っている個人や団体に交付されます。大変名誉なことに、今年度創設された大学院生枠に本学大学院修士課程2年生2名、1年生1名の計3名が採択されました。外部研究費を獲得する経験は研究者にとって大きな自信につながるため、さらなる飛躍が期待されます。

大学院生と研究テーマは、以下の

通りです。

▶座光寺恵子さん(2年)「癌化学療法中の患者における味覚障害の検証と支援のあり方について」▶塚田晃子さん(2年)「インスリン誘導性時計遺伝子と SIRT ファミリー遺伝子の発現相関」▶柳澤有希さん(1年)「AICAR によるインスリン誘導性転写因子 SHARP-2 遺伝子の発現調節機構の解析」(大学院健康科学研究科 教授 山田 一哉)

FD研修で授業評価報告会を開催

7月23日、本学におけるFD(教育の質的向上)活動の一環として、平成26年度後期の学生アンケートによる授業評価についての報告会を開催しました。FD・SD運営部会から、以前から指摘され続けてきたように学生の授業外学習時間が少ないことや、それでも、いずれの評価項目(学生積極性・教員熱意・教員工夫・学習環境・授業外学習・中間アンケート)についても年々評価の平均

数値が高まってきていることなどが報告されました。結果を受け、学部や学科単位で今後の対応策について意見交換の時間を設けたところ、多くは授業外学習時間確保の手段について活発に議論されていました。このような報告会形式の研修会は初めてでしたが、今後も本学における一つの重要な取り組みとし、組織的な教育改善に努めたいと思います。(FD・SD運営部会 川島 均)

本学では他にも、次のような出来事がありました。

- 6月17日、インターネット上の違法・有害情報を監視する「サイバーボランティア」に、長野県警から本学の学生6名と情報センターの教職員4名が委嘱されました。任期は2016年3月末までで、インターネットの監視、安全利用の啓発に協力します。
- 総合経営学科3年生の5名が8月4日、松本合同庁舎で行われた消費生活サポーター養成講座を受講し、消費者被害を防止するために啓発や消費者教育などを行う「長野県消費生活サポーター」に認定されました。
- 硬式野球部「松球寮」新築工事(来年3月完成予定)の地鎮祭を9月7日に執り行い、藤原一二理事長職務代理、住吉廣行学長はじめ学内関係者、硬式野球部部長、監

督らが列席して工事の安全を祈願しました。

- 8月21日にクラブ協議会リーダー研修会が開かれ、各クラブ代表の学生たちが、昨年まで松本山雅FCに所属しパーソナルメンタルサロンを開いた飯尾和也さんから、強い精神力を持つための大切さを学びました。

訂正

学報「蒼穹」6月号(119号)11ページの平成27年度人事短信において、大学事務局に「地域づくり考房「ゆめ」課長 白井 健司」が記載されていませんでした。訂正しお詫びいたします。

定年を過ぎて再雇用の歳になった。大学紛争を経て何となく研究を敬遠して10年近く診療のみに没頭したあと、研究にも従事、その後管理職を経て現在は教育に従事している。いずれの時期もそれぞれ全力で当たってきた。

何がきっかけだったか、40歳代後半から違う分野の本を読み始めた。子供の頃から自然や科学関係の本は読んだが、文学などはほとんど読まず、小説などは作り物の物語のどこがおもしろいのだろうとさえ思っていた。歴史や哲学、論壇誌、万葉集や平家物語など、これまでとは違った分野の本をポチポチ

ちかじり始めると、自分の物の見方が狭いことを思い知らされた。あるとき家内が「食うためには理系だけど、生きるためには文系よね」と言った言葉に妙に納得した。

朝日新聞と産経新聞を購読して読み比べてみたことが3年ほどあったが、両者の視点や主張、報道の仕方には明らかな違いがあり、自分の視点を持つことの難しさを自覚した。10代、20代に真剣に悩むべきだったのを、診療や研究の忙しさにかまけてその時期を逸してしまった悲劇が、自分の芯となるべき確固とした価値観を自覚するにはかなり困難を伴った。絶対的な知識も足りなかった。

教養が足りない！ 読んで考えていく中で、自分がこれまで如何に偏った見方をしてきたのか、最近になってようやく認識できた気がしている。過去40年間一生懸命やってきたと思う一方で、どこかで迷いながら生きてきたという自覚がある。「歴史を、人間を、社会を、世界をもっと知りたい」とつくづく思う。

人の世界観、価値観を形成するには基礎的な文系の知識や考え方を若いうちに身につけないとかなり苦労する。本学でも教養教育について議論されているが、学生が人間としてキチンと考えることができるように、微力ながら手助けをしたい。自省を込めて強くそう思う。

Information

ご相談内容は何でもOK! 入試相談会 個別相談

[日時] 10/17⁺ 大学祭| 梓乃森祭 同時開催 11/23^日
2016年 1/21^木・22^金 10:00~15:00

[開催場所] 松本大学 ※送迎バスは運行しませんので、ご注意ください。



授業の内容や雰囲気を確認するチャンス! 高校生のための公開授業

[日時] 10/12^日 9:30~16:50

[内容] 総合経営 流通総論 栄養 食事摂取基準論 短大 サービスマーケティング
観光 社会活動 スポーツ 体力測定と評価 など ※各学部10~20の授業を公開します。



無料シャトルバス運行 松本駅アルプス口からのみとなります。予約不要
行き▶ ①9:00発 ②10:00発 ③11:00発 ④13:00発 ⑤14:00発
帰り▶ ①13:30発 ②15:00発 ③16:00発 ④17:00発

入試相談会、公開授業について

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問合わせください。

ホームページ www.matsumoto-u.ac.jp TEL 0120-507-200



[日時] 10/31⁺・11/1^日
10:00~16:00 (講座によって開始時間は変わります)
[会場] 松本大学5号館

仕事も、趣味も、健康も、充地(知)の拠点
実したシニアライフを送るために。元気なシニア世代が真面目に学び、真面目に楽しめる「大人のための大学」が2日間限定で松本大学に開校します。

詳しい各講座の内容、受講お申し込みは長野朝日放送のホームページからご確認ください。

ホームページ www.abn-tv.co.jp

大学COC事業による「地域産品デザイン講座」「特別講演会」を開催します。

詳しくはP.9をご参照ください。

第49回松本大学大学祭

『梓乃森祭』

[一般公開]

10/17⁺ 10/18^日
10:00~

[テーマ]

五臓六腑で騒ぎ出せ



福澤朗氏トークショー & 学生とのパネルディスカッション

テーマ:コミュニケーション+話し方

10月17日(土) 開場11:00 開演11:30~

※当日入場整理券を配布します

野菜スイーツパティシエール 柿沢安耶氏公開講座

スイーツで届ける野菜の美味しさ

10月17日(土) 11:00~

※事前申込み、先着順となります。聴講無料

くじら雲 10周年記念講演会 汐見稔幸氏講演

未来を生きる子どもたちに、今、育むこと

~安曇野・里山生活で育つ子どもたち~

10月18日(日) 14:00~15:30

※聴講無料

※その他 ゼミ発表、各種イベント、模擬店など多彩な催しで皆さまのお越しをお待ちしています。

編集後記

猛暑が話題になった夏もあっという間に終わりを告げ、朝夕は秋の訪れとともに、肌寒さを感じる季節となりました。さて、今回は、「教育で地域を『元気に』」と題して、本学の教育スタイルの特色である「地域連携」の具体的な取り組みについて特集しました。「地域に学び」、「地域に還元する」という「双方向の学び」を、今後一層活発にして、学生の成長と共に、地域でたくさんの信頼を勝ち取っていきたくと思いました。また、私自身は9ページ掲載の「健康長寿長野研究会」のシンポジウムの講演者として関わりました。発表後、他大学の先生から共同研究の話をいただく等の反応があり、なお一層研究に励みたいと決意した次第です。(記:広報委員長 高木 勝広)

